

TANIGO

丹後普及センターだより

第22号

(平成27年7月発行)

〒627-8570

京都府京丹後市峰山町丹波855

京都府丹後広域振興局農林商工部

丹後農業改良普及センター

電話0772-62-4308

FAX0772-62-5894

丹後普及センター 検索

特集 平成27年度からの普及活動計画



丹後農業改良普及センターでは、平成27年度から3年間にわたり、丹後地域の農業・農村振興のための新たな計画に基づいた普及活動を行います。今号では、広域で取り組む7つの重点計画を紹介します。

～知ろう、守ろう、考えよう、みんなの人権～

1 ものづくり・販路づくり

強い丹後の稲作を推進



丹後地域は、全国・米の食味ランキングで「特A」ランクを獲得する等、良食味米産地として評価を得ています。今後とも、気候変動や社会情勢の変化にも対応できる強い丹後の稲作を実現するため、株張りや葉色の診断に基づく穂肥量の調整による良食味米生産、酒造原料米「祝」「京の輝き」の安定生産に取り組みます。また、水田営農の新アイテムである飼料用米の収量向上・コスト低減等の技術実証と普及にも取り組み、稲作農家の皆様を応援します。

京野菜の生産拡大に取り組みます



(写真提供：(公社)京のふるさと産品協会)

九条ネギ・黒枝豆の規模拡大と収益性向上を目指した技術の確立・普及を推進します。

九条ネギでは、夏季や冬季にも生産性の高い品種の選定や、丹後農業実践型学舎の卒業生等による国営開発農地での大規模露地栽培の確立を目指します。

黒枝豆では、「京夏すきん」や茶シミ症のでない「紫すきん3号」の生産拡大をすすめるとともに、栽培規模に応じた機械化体系の確立を目指します。

開発農地において柱となる作物を育成



これからの丹後国営開発農地における、営農の柱となる作物を育成するための支援を行います。

西洋ニンジンの生産の安定と経営の把握

技術や経営の課題について検討し、大型農家を育成するとともに産地化を目指します。

小玉西瓜の栽培技術の習得

栽培経験の浅い農家に対して技術指導を徹底し、生産を安定させ主要な夏作物として育成します。

丹後産茶の生産安定とブランド確立



丹後地域における茶業振興は、平成16年から丹後国営開発農地を中心に進められ、22年には製茶工場を建設し市場出荷が始まりました。

普及センターでは、研究機関等と協力して、茶園の状況に応じて必要な技術を組み合わせた実証栽培を行います。これにより生産者が改善効果を実感するとともに、茶栽培の考え方と基本技術の定着を図り、京丹後産茶の生産量と品質を向上させる取り組みを進めます。

2 人づくり・組織づくり

担い手の確保育成や 経営力向上等の支援



定年帰農者などの就農希望者を対象に、「丹後農業の担い手育成講座」を開催し、農業の基礎知識の習得と共に、就農後の作付品目と売り先までが明確にイメージできる研修を目指します。

新規就農者及び就農を目指す研修生を対象に、就農計画に沿った持続可能な農業経営を行うため、市町やJAなどと協力しながら、それぞれの課題に合わせたきめ細やかな支援を行います。

農業青年を対象に、経営力向上のためのスキルアップセミナーや農業青年の交流会を開催し、経営課題を明確にして経営発展を支援します。

4 安心・安全づくり

有機農業推進のための 基礎づくり支援



丹後地域は有機農業への関心が高く、先進的な動きがあります。京都府は平成26年秋に有機農業アドバイザー制度を制定し、丹後地域では2名のアドバイザーが認定されました。また27年1月には、水稻の有機農業を実践する農家の組織「丹後地域水稻有機農業研究会」が誕生しました。

普及センターはこのような動きに対応し、有機農業で活躍される方々の活動支援を行います。

3 地域づくり・絆づくり

多様な法人育成による 地域活性化支援



丹後管内でも農村の過疎・高齢化にともない、農業の担い手が不足する地域が多くなっています。このような中、京力農場プランを作成するとともに、集落型農業法人を設立して、「地域農業を将来にわたって持続させよう」という取り組みや、地域の内外に担い手を求める動きが見られます。

そのため普及センターでは、水稻以外の多様な収入源を確保して経営の安定化をめざす法人や、これから運営方針や経営計画を作成しようとしている新規法人を対象に支援し、これらの法人の持つノウハウを他地域にも広げることを行っています。

農薬を安全に使用しましょう

農作物や周辺住民の安全のために、農薬は決められた使用方法を守り、学校や住宅地、河川などへ飛散・流出しないよう、下記の事項を守って使用するようにしましょう。

- 1 農薬ラベルの内容を確認し、適用作物・希釈倍数等の記載事項を必ず守る。
- 2 農薬用マスク・保護メガネ等を着用し、使用後の散布器具はしっかり洗い、洗浄液は河川や用水路に流さないように処理する。
- 3 水田で農薬を使用する場合は、注意事項に書かれた止水期間を守る。
- 4 土壌くん蒸剤を使用する場合は、ガスの揮散を防ぐため被覆を完全に行う。
- 5 学校や住宅地の周辺では、事前の周知や立入制限を行うなど、細心の注意を払う。
- 6 農薬は安全な場所に鍵をかけて保管する。

「丹後フルーツ」で 発信力を強化



「京たんご梨」や「琴引メロン」など丹後には美味しいフルーツがたくさんありますが、丹後がフルーツの宝庫であることは、府民にさえ余り知られていません。

そこで丹後産の果樹だけでなく、メロンやスイカ等もひとまとめにした「丹後フルーツ」という統一イメージを作り、発信力を強化しようという活動が始まっています。これまでにパンフレットや統一デザインの試作が行われ、モニター調査等で好評な結果を得ています。



普及センター職員紹介

所長 加藤 英幸 センター統括

〈産地づくり担当〉

副所長	上西 健二	産地づくり担当統括
専門幹	二木 仁	京丹後市 網野町・久美浜町砂丘地域担当
主査	阪本 祐一	京丹後市 久美浜町担当
主査	藤田 守彦	与謝野町担当
主査	杉本 充	国営地域(野菜等)担当
技師	藤本 顕次	京丹後市 丹後町担当
技師	松本真由美	宮津市南部担当

〈担い手づくり担当〉

副所長	久木崎孝弘	担い手づくり担当統括
主査	牧 英樹	国営地域(茶)担当
副主査	和佐谷宏子	京丹後市 峰山町担当
副主査	和田 豊明	国営地域(野菜等)担当
副主査	安田 規良	宮津市北部・伊根町担当

〈地域農業担当〉

副所長	長谷川裕司	地域農業担当統括
専門幹	今福 秀秋	京丹後市 弥栄町担当
主査	松藤 宏之	週疎集落地域担当
主査	市田 孝博	国営地域(茶)担当
技師	下司 純也	京丹後市 大宮町担当

丹後のいきもの



アカハライモリ

この愛くるしい顔を皆様も一度は目にしたことがあるのではないのでしょうか。この生物はアカハライモリと呼ばれています。イモリは両生類でカエルの仲間であり、トカゲとは異なります。幼生のときはオタマジャクシと同じ形態をしており、えら呼吸をしますが、成体になると肺呼吸をします。このため、カエルと同じように水辺や湿った森の中に生息しています。丹後ではちょっとした小川や田んぼ、ため池などで見ることができます。

メール会員
募集中!!

おいしいお米づくりのヒントを
メールでお知らせします!

丹後米改良協会では、おいしい丹後米づくりのための管理のポイントや病害虫の発生・気象災害対策情報を、メールでお知らせしています。(無料。通信料は別途必要)

- ①メールの利用可能な、携帯電話やパソコンを用意します。
- ②次のあて先に、空メールを送ってください(右のQRコードでも可)

tangomai@mama1.jp

- ③「ご入会ありがとうございました」の返信メールが届いたら、登録成功です。



※登録方法がわからない場合は、丹後農業改良普及センターか、最寄りJJAに相談して下さい。

～守りましょう! 農薬の適正使用であなたの農業～